立西巻き

尼崎市立立花西小学校
校長　笠井美香
２０２５．10．28（火）
No.38

［　校長先生つぶやき、つぶやく（校長だより）］

ありがとうでいっぱいです。

閉会式。白組団長が優勝した赤組団長をじっとみつめ、さわやかに拍手をおくる姿に、心うたれました。彼の表情は私のみが見ているものでしょう。

白組団長は、仲間と共に、これまで一生懸命頑張ってきたのでしょう。まちがいありません。だから、たとえ負けたとしても、お互いに一生懸命頑張ってきたことを知っている赤組の団長にしっかりと拍手を送ることができるのでしょう。負けて、とてもとても悔しいに違いありません。けれども、勝った相手に、しっかりと拍手を送ることができる。そこには「一生懸命に力を尽くした人」のみがわかる相手へのリスペクトがあります。きっと、白組が優勝したとしても赤組団長も、同じように拍手を送ったであろうと想像できます。

そしてまた、全校生徒やお客様、保護者の皆様、地域の皆様からも多くお褒めの言葉と拍手をいただきました。ありがとうございました。

先だっての東京世界陸上を例にして考えますと、決勝進出やメダル獲得が期待された選手がいましたが、思い通りにレースを進められた選手もいれば、残念ながら目標を遂げられなかった選手もありました。しかしながら、多くの人から期待された結果が残せなかった選手に対しても、観衆や、ファンは惜しみない声援と拍手を送りました。それはなぜか。そこには「一生懸命に力を尽くした人」にしか表現できない美しさがあるからだと思うのです。目標に向かって、そして多くの期待を背負って、ひたむきに取り組む姿を見て人は、感動します。勝ったから感動するのではありません。負けても感動するのです。これまでの頑張りを思い想像し、感動して拍手を送るのです。

本校体育大会においても、運動が得意な子も、運動が苦手な子も、どの子もみな、がんばりました。ですから、一人ひとりの頑張りに対し、感動を覚え、大変多くの拍手をいただいたとうれしく思っています。

感動とは心が揺れ動き、成長することです。勝って喜び、負けて悔しがり、これまでの練習の成果を緊張とともに、発揮し、そうして心から想いが溢れるほど、揺れ動きながら成長して、人は人の気持ちがわかるようになります。

一生懸命、目標に向かって、みんながみんなを応援しました。どんな結果が出ようとも、その過程を思い出したら自然と笑顔になれるような、心動く一日となりました。児童会が掲げた「絆」も深く深く深まりました。

あれから、帰りには、「今日の晩御飯、期待しよう！」と頑張った後のご褒美ご飯を楽しみしている 6 年生がいました。お家でお話を聴いてもらい、おいしいごはんを食べて、あたたかいお風呂とお布団で、子ども達はぐっすり眠ったことでしょう。支えてくださったお家の方々に感謝しています。ありがとうございました。

さて、今朝の子ども達。東門前で、いつも以上に大きなあいさつをしてくれました。近頃は、自分からあいさつをする子ども達が増えています。うれしいです。お弁当を片手に「おにぎりかなあ。何がはいってるかなあ。」とうれしそうに登校してきました。そして、先ほどは、４年生が体育大会で使ったパイプ椅子拭きや得点板の片づけをていねいにしてくれていました。体育大会が終わった後も、最後まで体育大会の全てを大切にしてくれていることを感じました。よく頑張ってくれる子ども達と先生達に、たくさんたくさん「ありがとう」の思いでいっぱいです。